



開講式

市民社会とケア

「する/される」から
「つくりだされる」へ

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



7.20 土 13:30-17:00 対面&オンライン 白石正明さん、近藤博子さん

白石 正明さん 元 医学書院「シリーズ ケアをひらく」編集担当

医学書院にて、2019年に毎日出版文化賞を受賞した「シリーズ ケアをひらく」を担当。同シリーズには川口有美子『逝かない身体』（大宅壮一ノンフィクション賞）、熊谷晋一郎『リハビリの夜』（新潮ドキュメント賞）、六車由実『驚きの介護民俗学』（医学ジャーナリスト協会賞）、國分功一郎『中動態の世界』（小林秀雄賞）、東畑開人『居るのはつらいよ』（大佛次郎論壇賞）などがある。最新刊は柴崎友香『あらゆることは今起こる』、赤坂真理『安全に狂う方法』。

「ケアをひらく」以外では、雑誌『精神看護』の創刊、中井久夫『看護のための精神医学』、イヴ・ジネスト『ユマニチュード入門』、田中とも江『縛らない看護』、斎藤環『まんがやってみたくなるオープンダイアログ』など。

今年3月に医学書院を退職したが、あまり生活は変わらない（涙）。

近藤 博子さん 気まぐれ八百屋だんだん / 一般社団法人ともしび at だんだん 代表理事

1959年、島根県生まれ。歯科衛生士のかたわら、「だんだんワンコインこども食堂」代表、「気まぐれ八百屋だんだん」店主。2008年、「食と歯と健康をつなげたい」との思いから、無農薬野菜を扱う「気まぐれ八百屋だんだん」を開店。すると、買い物よりも身の上話をする客が多いことに気づく。やがて子どもたちの学習支援が必要と感じ、八百屋の一角を子どもの宿題を見る「みちくさ寺子屋」や勉強会「私も哲学」など、地域の困ったことを助け合う場にする。2010年ごろ、客から親が精神的な病気で食事が作れない子どもがいると聞き、温かい食事を提供する「だんだんワンコインこども食堂」を開く。「だんだんワンコインこども食堂」は、大人も親子も、高齢者も歓迎している。「こども食堂」の活動は、まず豊島区に取り入れられ、やがて全国に広がった。2023年、吉川英治文化賞を受賞。



第2回
続・ケアの観点から
NPOのあり方を
考える



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

市民社会コース

7.30 火 13:30-15:30 播磨靖夫さん

播磨 靖夫さん 一般財団法人たんぼぼの家 理事長/社会福祉法人わたぼうしの会 理事長
1942 年生まれ。一般財団法人たんぼぼの家理事長。新聞記者を経てフリージャーナリストに。障害のある人たちの生きる場「たんぼぼの家」づくりを市民運動として展開。アートと社会の新しい関係をつくる「エイブル・アート・ムーブメント（可能性の芸術運動）」を提唱。近年では障害のある人のあたらしい働き方や仕事づくりを提案する「Good Job!プロジェクト」を展開。また、1999 年からケアの文化の創造をめざし、「ケアする人のケア」プロジェクトにも取り組んでいる。

平成 21 年度 芸術選奨 文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞

令和 4 年度 文化功労者（芸術振興）選出

2004 年～2008 年 日本 NPO センター代表理事 2012 年～同センター顧問

第3回
仲間とともに
活動を
つづけるコツ



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

市民社会コース

8.27 火 13:30-15:30 山崎宏さん



山崎 宏さん 特定非営利活動法人 ホールアース自然学校 代表理事

静岡県三島市出身。幼少の頃より伊豆・箱根・富士山の自然を遊び場にして過ごす。スポーツに明け暮れた中学・高校時代を経て、学生時代より一貫して、環境教育・エコツアー・里山保全分野に関わり続けている。大学卒業後は環境 NGO の嘱託研究員として、主に里山とそこに暮らす生物の保全に関する業務に携わる。その後、専門学校講師として教育現場に6年間従事し、2007年4月よりホールアース自然学校へ。ホールアースでは、組織マネジメントに力を注ぎつつ、富士山麓での自然ガイド、企業の環境活動支援、行政が主催する環境系研修会の運営・講師などを多数担当。近年は、居住地域周辺の学校や自治会、地域づくり団体等との関わりも増えてきている。2014年4月より現職。認定 NPO 法人日本 NPO センター副代表理事。日本 NPO センターでは、中期ビジョンの策定や東日本大震災現地 NPO の支援等に携わる。

第4回
NPOらしい
組織マネジメント
とは



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

市民社会コース

9.17 火 13:30-15:30 木内真理子さん

木内 真理子さん 認定特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 理事・事務局長
海外経済協力基金・国際協力銀行(JBIC)にて、アフリカ、インドネシア、フィリピンでの政府開発援助 (ODA) 業務を担当。母になったことを契機に転職。東京大学にて「Sustainability Science」の研究教育拠点形成に従事。「現場に戻ろう」をキーワードに 2008年10月よりワールド・ビジョン・ジャパン勤務。2011年5月東日本大震災緊急復興支援部長、2017年4月より事務局長。青山学院大学非常勤講師、JICA 事業評価外部有識者委員、JANIC 理事、日本 NPO センター理事。オックスフォード大修士課程修了 (開発経済学)。



第5回 企業セクターから みたNPO

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



市民社会コース 10.8 火 13:30-15:30 東郷琴子さん、長澤恵美子さん、吹田博史さん

東郷 琴子さん パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社

企業市民活動推進部 ソーシャルアクション推進課 課長

松下電器産業（株）（現、パナソニック ホールディングス）に入社。

1999 年にパナソニックグループの企業市民としての社会貢献活動を行う企業市民活動推進部に異動し、現在に至る。

企業市民活動推進部では「社会福祉」「環境」分野の担当を経て、2005 年より「NPO/NGO 支援」を担当し、組織基盤強化の取り組みに助成する「Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs」を長年にわたり推進。2011 年には、従業員のビジネススキルを活かした「ロボノプログラム」を立ち上げた。

日本 NPO センターとは 2013 年から組織基盤強化の重要性をお伝えする「組織基盤強化セミナー&ワークショップ」の開催、2014 年には伴走支援を行う人材を育てる「NPO /NGO 『支援力』応援プログラム」を展開するなど、NPO/NGO セクターの組織基盤強化に資する取り組みを協働で行なっている。

現在は、誰もが生き生きとくらすサステナブルな共生社会の実現に向けて、「貧困の解消」「環境」「学び支援」を重点テーマにステークホルダーの皆さんと協働して取り組みを推進。

長澤 恵美子さん わくわく共創オフィス 代表

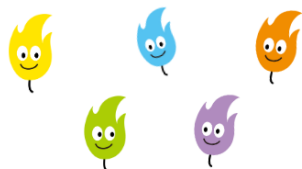
1983 年、経済団体連合会（現 一般社団法人日本経済団体連合会、略称 経団連）事務局入局。96 年から企業の社会貢献活動の推進を担当。03 年からは企業の社会的責任(CSR)の推進も担当し、ISO における社会的責任の規格づくりに参加する経済界代表をサポート。09 年研修や出版などの事業を行う経団連事業サービスに出向。11 年 3 月から 1 年間、経団連東日本大震災対策本部を兼務し、企業による支援活動をコーディネート。17 年 4 月、経団連に帰任し、教育・CSR本部（現 SDGs 本部）統括主幹、副本部長として、企業行動憲章の改定、企業による SDGs の推進などを担当。23 年 4 月、経団連を退職し、個人事業主として活動中。23 年 7 月から経団連労働法制本部参事として、国際労働機関（ILO）使用者側理事を務めている。



吹田 博史さん ヒロ CSR・企業市民活動研究所 代表

1988年、武田薬品工業株式会社に入社。東北支店仙台営業所でMR職を担当した後、医薬外事業（化学品カンパニー）にてアドミニストレーション業務を経験。1998年から10年間、武田薬品労働組合に専従（副中央執行委員長を歴任）。2008年、会社復帰のタイミングで社長室にて政策秘書業務に従事。2010年、CSR部門の立ち上げに携わるとともに、企業市民活動・寄付担当部長を経て、2020年から2023年までGCAジャパンCSRヘッドを務めた。この間、日本における各種の社会貢献に関する活動（寄付プログラム、従業員ボランティア、従業員募金、社内フィランソロピーイベント等）を実施し、中でも東日本大震災においては、総額32億円の支援プロジェクト「日本を元気に・復興支援」を手掛け、12団体・13プログラムを支援した。2023年9月末退職。同年10月、ヒロCSR・企業市民活動研究所を設立し、コンサルティング業務を行うとともに、内閣府休眠預金等活用審議会専門委員として活動中。

第6回
わたしたちの
市民社会論



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



第1回 自治体リーダー と語る 協働のこれから



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

連携・協働コース

7.29 月 13:30-16:00 対面&オンライン 松尾 崇 鎌倉市長

松尾 崇さん 神奈川県 鎌倉市長

昭和 48 年 9 月神奈川県鎌倉市生まれ。日本大学経済学部卒業後、日本通運株式会社入社。平成 13 年鎌倉市議会議員初当選、平成 19 年神奈川県議会議員初当選ののち、平成 21 年 11 月鎌倉市長に就任し、現在 4 期目。選挙時に、市民や医療福祉の専門家と一緒に作成した福祉医療に特化したマニフェストを掲げ、「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」の制定や「障害者 2 千人雇用事業」等を進める。また県内で初めて、フリースクールの経費一部補助や放課後等デイサービスの無償化を実施。令和 7 年度には、全国初となる分校型の「学びの多様な学校（不登校特例校）」を設置予定。誰もが自分らしく安心して暮らすことのできる「共生社会」を市民や団体、事業者等と共創しながら、持続可能なまちづくりに取り組んでいる。座右の銘は「温故知新」。

第2回 そうだったのか！ 協働の考え方・ 基礎知識



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

連携・協働コース

8.6 火 13:30-15:30 椎野修平さん



椎野 修平 認定特定非営利活動法人日本 NPO センター 特別研究員

神奈川県庁にて税務、国際交流、児童福祉、広報、商工部局などの業務を担当。1996 年 4 月に全国に先駆けて開設された「かながわ県民活動サポートセンター」に 10 年間勤務し、市民活動や N P O の支援に取り組む。この間に「かながわボランティア活動推進基金 21」の設立に関わり、N P O と行政の協働事業への資金提供の仕組みを構築。退職後に経済団体で中小企業の経営支援や商店街振興などに携わった後、2012 年 4 月より現職。

第 3 回 最先端の課題を通して 考える協働

「女性支援新法」



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

連携・協働コース

9.3 火 13:30-15:30 中田慶子さん

中田 慶子さん 特定非営利活動法人 DV 防止ながさき 理事長

特定非営利活動法人デートDV防止全国ネットワーク 代表理事

大学で心理学専攻の後、東京都の福祉施設に心理職として常勤、非常勤で勤務。ノルウェー滞在や東京都府中市市議を経験後、2002 年に有志で DV 防止ながさき設立。翌 2003 年に法人化し理事長に就任。

2004 年から若い世代へのデートDV予防教育をスタート。現在は県内で年間 90 校前後の中高校生へ出前授業を実施。2012 年からは長崎県の委託事業として DV 被害者の中長期支援事業を実施。2021 年よりデートDV防止全国ネットワーク代表理事。

DV 防止ながさきが作成した冊子類には、中高校生のための予防教育テキスト「新版すぐに役立つデートDV防止教育テキスト」、中高校生用啓発ハンドブック「あなたと私の心とからだを大切にするために」、DV で避難してきた子どものための心理教育テキスト「私の青いノート」などがある。



第4回
最先端の課題を通して
考える協働

「ヤングケアラー」



ともに市民社会をつくる  学びのコミュニティ

ともしび

連携・協働コース

9.24 火 13:30-15:30 堀越栄子さん

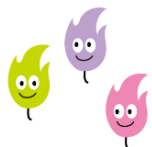
堀越 栄子さん 認定特定非営利活動法人さいたま NPO センター 代表理事

一般社団法人 日本ケアラー連盟 代表理事 / 日本女子大学名誉教授

日本女子大学在職中は教育研究に携わりながら、1980年代から「おおみや・市民の会」の活動に参加。1997年に「NPO法人さいたま NPO センター」の設立に関わり、2017年より代表理事として市民活動やNPO活動を支援している。2010年には「ケアラーを社会で支えるしくみを作ろう」と日本ケアラー連盟の設立に加わり、以来、全国2万世帯のケアラー実態調査や自治体でのヤングケアラー実態調査、国や自治体への政策提言、埼玉県ケアラー支援条例やさいたま市ケアラー支援条例制定への働きかけ等を積極的に行うとともに、自治体や関係機関職員・市民・生徒や大学生等へのケアラー・ヤングケアラー支援研修を担っている。専門は生活経済・生活経営。さいたま市在住。

第5回
最先端の課題を通して
考える協働

「孤独・孤立対策」



ともに市民社会をつくる  学びのコミュニティ

ともしび

連携・協働コース

10.15 火 13:30-15:30 中西希恵さん、北海道保健福祉部福祉局 担当者



中西 希恵さん 特定非営利活動法人北海道NPOサポートセンター 理事

大学卒業後、NPO 法人北海道 NPO サポートセンターに入職。連携団体である市民ファンド、市民バンクなどの事務局に携わりながら、道内の NPO 等に対し、領収証の整理・会計ソフトへの入力など日常的な会計サポートから決算書作成サポート、電話・訪問相談対応、月に一度の会計講座の実施など、主に会計を中心として組織基盤強化のサポートを行う。近年はアクティブシニアの活躍支援事業や「北海道 NPO の戦略づくりプロジェクト」などを実施。令和 5 年度「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」担当として、2 日間で約 400 人が参加した「北海道 NPO フェスティバル 2023 (N フェス)」を開催した。

北海道 保健福祉部福祉局 地域福祉課 担当者

社会環境の変化による人と人との「つながり」の希薄化やコロナ禍における孤独・孤立の問題の顕在化、今後の更なる深刻化が懸念されることから、行政機関と NPO 等支援団体が分野横断的に連携する場として「ほっかいどう孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」を設立。

孤独・孤立対策の推進に向けた啓発、行政機関及び支援団体の活動内容の共有及び業務連携の機会の提供、孤独・孤立対策に関する好取組やノウハウの共有、その他本会の目的を達成するために必要な取組を行う。

第 6 回 協働の先にある 社会像 「市民自治社会」とは



ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



連携・協働コース

10.29 火 13:30-15:30 川村正浩さん、高平亮さん、永井美佳さん

川村 正浩さん 岐阜市 市民協働推進部市民活動交流センター 公民館係長

1997 年 4 月に岐阜市役所に入庁。担当業務として、福祉の分野で地域福祉計画の策定(2003 年)、市民協働の分野で岐阜市住民自治基本条例の制定(2007 年)及び協働のまちづくり推進計画策定に携わるなど、主に市民協働・コミュニティに関する施策を担当。また、地域における自治的コミュニティの形成に向け、まちづくり協議会(地域活動団体のネットワーク組織)の設立・支援の事業などに取り組む。2023 年 4 月から現在の所属。

「たまたま担当業務がそうだっただけの一担当職員ですが、前向きで挑戦的な人々と一緒に仕事ができる機会が多い市民協働の分野に魅せられた」行政職員です。



高平 亮さん 特定非営利活動法人岡山 NPO センター 事業部長・地域連携センター所長

2006 年に特定非営利活動法人岡山 NPO センターにアルバイトとして入職。翌年から職員となり、2013 年に岡山県ボランティア・NPO 活動支援センター「ゆうあいセンター」の所長に就任。東日本大震災支援のための県域ネットワークや高校生ボランティア・アワードの立ち上げに取り組む。2014 年、岡山市で「ESD 市民活動推進センター（現 ESD・市民協働推進センター）」が設置され、センター長に就任。官民協働事業のコーディネートと伴走支援に力を注いでおり、2023 年度までに実施された 36 事業中の 21 事業が市の施策化または自主事業化に至っている。その他、現在までに岡山県内の 8 自治体にて協働事業（補助事業）の審査員を務めたほか、第 5 回・第 6 回協働環境調査の事務局業務を担当するなど、官民の協働に関する経験・知識の習得に努めている。

永井 美佳さん 社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長

学生時代に参加した援農ボランティア活動をきっかけとして、国際協力、環境、福祉などさまざまな社会問題解決の現場に足を運ぶようになる。「自身が社会とのつながりを実感できたように、同世代の若者が社会問題を知るきっかけとなる場が必要」と考え、学生ボランティアとして大阪ボランティア協会の若者対象事業を複数立上げる。学生時代に出会った市民活動家の生きざまをロールモデルとして、この世界で生きることを決意。複数のコーディネーション機関の事務局勤務を経て、1995 年 9 月に入職。2016 年 4 月より事務局長、2019 年 6 月より常務理事を兼任。「市民の力を信じる」を信条に、社会問題解決の場に市民参加を促すコーディネーションに邁進。ボランティアコーディネーション力 1 級検定合格、准認定ファンドレーザー。



第1回 NPO支援者の 仕事と姿勢

支え合いを創り出す

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



NPO 支援者 コース

7.23 火 13:30-15:30 戸井田由奈さん、猪俣健一さん

戸井田 由奈さん 特定非営利活動法人長野県 NPO センター

長野市市民協働サポートセンター「まんまる」 センター長

千葉県出身。大学卒業後、飲料・食品メーカーの営業として奮闘していた日々の中でも印象的だったのは、「大事なものは人とのつながり」という先輩の言葉。2012年結婚を機に長野へ。2018年に現在のNPO法人長野県NPOセンターに入職し、長野市からの受託事業である市民協働サポートセンターでコーディネーターとなる。日々の相談や講座運営などを通じたNPOの支援や、「ながの地域まるごとキャンパス」、地縁組織やNPOとの協働事業、社会課題をテーマにして交流会などを開催し、市民の参加の機会を創っている。地域の課題解決は世界の課題解決につながることを、そのためにも一人の参加が大きな力になることを日々の業務の中で感じている。モットーは、仕事も私生活も「明るく楽しく元気よく、前向いて」。

猪俣 健一さん 阪南市社会福祉協議会 事務局次長／コミュニティワーカー

1982年山口県生まれ。大阪に移り、大学生時代のボランティア活動を通して想いをカタチにできる仕事に魅力を感じ、2004年に入職。校区福祉委員会やボランティアセンター、福祉教育、災害支援、会計等を担当し、2016年より主任、2018年から現職。特徴的なプロジェクトとして、地域医療を守る会、災害時要援護者支援プラン策定、買い物支援プロジェクトチーム、子ども福祉委員、少年院生ボランティア、農福連携、漁福連携、等。福祉から越境して様々な住民と共感の輪を広げながらまちづくりに携わる。法人組織の運営を担うとともに、現在もコミュニティワーカーとして住民主体にこだわりを持ち、日々地域を駆け回っている。取り組みは『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み』（2021/明石書店）「第7章 大阪府阪南市一住民との協働による共生の地域づくりへの取り組み」にも収録されている。



第2回 NPO支援者の 仕事と姿勢

寄り添い、向き合う

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



NPO 支援者 コース

8.20 火 13:30-15:30 入江陽子さん、生越康治さん

生越 康治さん 特定非営利活動法人 NPO くまがや／熊谷市市民活動支援センターセンター長

さいたま市出身。大学を卒業後、介護保険事業所勤務を経て2008年よりさいたま市の市民活動支援施設スタッフとして講座などを企画担当。その後、同施設運営団体の事務局長として認定取得業務や会計など専門相談、調査事業に従事。2017年からは熊谷市市民活動支援センターを指定管理運営するNPO くまがやの理事として非営利組織の基盤づくりに取り組むほか、熊谷にキャンパスがある立正大学の地域連携コーディネーターを兼務。学生と地域をつなげる役割を担当。そのほか、空き家を活用したコミュニティスペース運営や市民記者の養成など地域情報発信の仲間づくりにかかわる。

入江 陽子さん NPO 法人市民ネットすいた

吹田市立市民公益活動センターラコルタ

兵庫出身、大阪在住。東京、愛知、岩手を転々としながら、企業勤務等を経て30代半ばでNPOの世界へ。2018年より現職。2022年より複数の中間支援組織の連携プロジェクトの主担当者として小規模NPOの伴走支援に携わる。その他、市民活動向け補助金・助成金の審査員、NPO法人会計力検定事務局、生涯学習財団認定ワークショップデザイナー（マスター）など。2018年から習い始めた落語の高座名は「たいがー亭ばあむ」。



第3回 NPO支援者の 仕事と姿勢

課題を社会化する

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



NPO 支援者 コース

9.13 金 13:30-15:30 鈴木雄飛さん、北川有紀さん

鈴木 雄飛さん 株式会社電通 課題ラボプロジェクト

慶應義塾大学商学部を卒業後、株式会社電通に入社。ストーリーテリングを武器に、生活者・企業・世の中が三方よしとなる文脈を編むコミュニケーション設計を得意とする。最近は、個人と組織が“本気でしあわせのために働ける社会”の実現を目指し、社内外の団体のミッション・ビジョン・バリュー設計や組織文化づくりをサポートしている。課題ラボプロジェクトでは、NPO や企業など多様な主体が集まり社会課題を深掘り考えるセッションファシリテーションやコピーライティングを担当。

北川 有紀さん 特定非営利活動法人横浜市民アクト

ほどがや市民活動センターアワーズ センター長

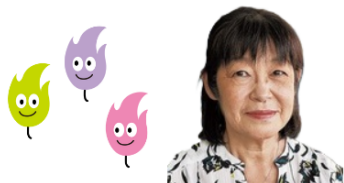
生まれも育ちも東京大田区。明治学院大学に入学し、たまたま受講したボランティア学の授業をきっかけに、NPO インターンシッププログラムに参加。活動先のNPObirthでは里山公園の施設やイベント運営に関わる。2012年にアクションポート横浜に新卒採用され、コミュニティサイクル事業の現場を担当する。そこでの業務を通じて、若者から高齢者まで様々な背景をもったメンバーが主体となり活動している様子が面白く、そうした多様なコミュニティづくりの関心が深まる。その後、企業への転職を経て2018年より横浜市民アクトが管理運営する、ほどがや市民活動センター「アワーズ」職員、2021年よりセンター長。知らない土地やけもの道が好き。



第4-5回 "つなぐ力"を 現場から学び、 高め合う (フィールドワーク)

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび



NPO 支援者コース 10.4-5 金-土 対面のみ 手塚明美さん、佐藤正則さん

手塚明美さん 認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構 理事長

大学卒業後、住宅メーカー設計部に所属。地域活動や社会教育活動に継続的に参加。1998年 NPO の支援を通じたまちづくり団体を設立。現在、神奈川県のみならず非営利組織の経営や運営に関する支援を中心に、人材育成支援組織や財政的支援のための財団の設立にかかわる。教育活動として大学等の講師を務める。また、大規模自然災害復興支援にも長くかかわり、2022年には神奈川県災害復興支援団体を設立した。1951年群馬県高崎市生まれ、神奈川県藤沢市在住。

第6回 NPO支援者の 仕事と姿勢

ともに市民社会をつくる 学びのコミュニティ

ともしび

事業の評価に伴走する



NPO 支援者コース 10.22 火 13:30-15:30 松村幸裕子さん

松村 幸裕子さん 共奏学舎主宰/NPO 事業評価コーディネーター友の会 (NECOゼミ)

1983年京都生まれ。高校生の頃から、京都市ユースサービス協会にて、様々なボランティア活動に参加し、みんなで何かをつくりあげていく「オモロサ」に出会う。大学院在籍中に自らコミュニティスペースを立ち上げたり、高校生のまちづくり活動をサポートする活動などに従事。(特活)暮らしづくりネットワーク北芝にて子ども若者の居場所づくりや社会体験活動づくり、NPOの基幹業務、被災地団体支援に携わった後2019年秋にフリーランスに。2020年夏出産を経て、赤子とともに社会に関わるスタイルを模索。評価の視点を取り入れながら、個人・団体支援をおこなっている。